



印西市が目指す教育の姿とは

(仮称) 印西市教育ビジョン
WG 議論中間まとめ

2025年8月21日

はじめに

地域の未来である子どもたちが「幸せに生きる力」を育むために

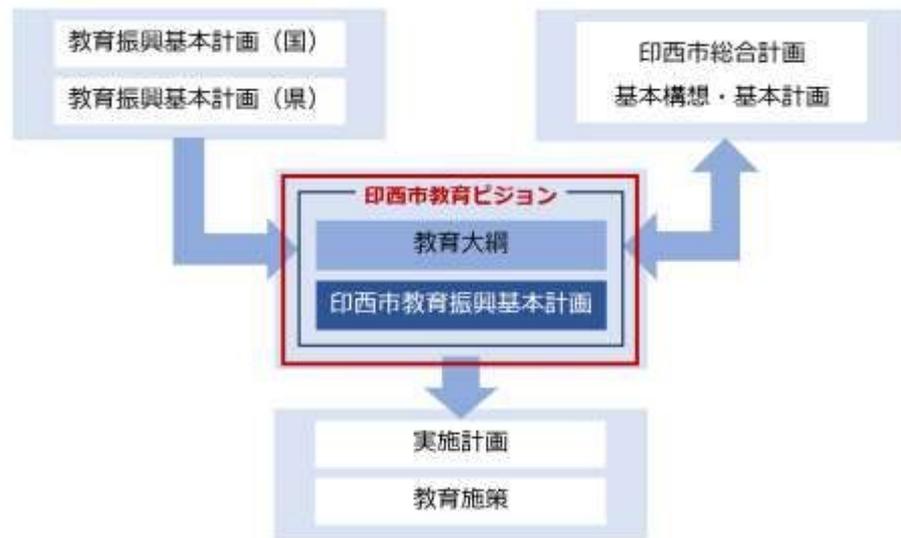
「印西市教育大綱」と「印西市教育振興基本計画」を一本化し「**印西市教育ビジョン**」を策定

印西市教育ビジョンとは

- ・ **印西市の教育の方向性を示すもの**
期間：令和8年度～令和12年度

【基本的な考え】

- ・ 地域にとって子どもたちは「宝」であり 地域の未来そのものであると考える
- ・ 「正解がない」といわれる時代において、地域の未来である子どもたちが、「幸せに生きる力を育むこと」こそが最優先事項である
- ・ 教育に関する課題がこれまで以上に多様化する中で、市長部局と教育委員会が市の目指すべき教育を一緒に考え、一体となって推進していく



Index

A. 総論

A-1 世界潮流

A-2 変革の方向性

A-3 教育ビジョン戦略

A-4 教育ビジョン戦略の全体像

A-5 印西市が目指す教育の姿とは

A-6 「目指す姿」を実現するために必要なことは？

A-7 そのためにはどのような支援が必要か？

A-8 これからの教育に必要な「3つの力」を育むために特に何に力を入れるべきか？

B. 各論

B-1

B-2

B-3

B-4

B-5

B-6

B-7

B-8



A. 総論

私たちを取り巻く世界は急激に変化している 世界潮流を踏まえた教育の変革へ

変化が激しい・先が見通せない時代（答えのない世界）

社会と人の幸せの在り方

気候変動と持続可能性

多様性が増す社会

関係性の希薄化と孤独化

問われる民主主義の在り方

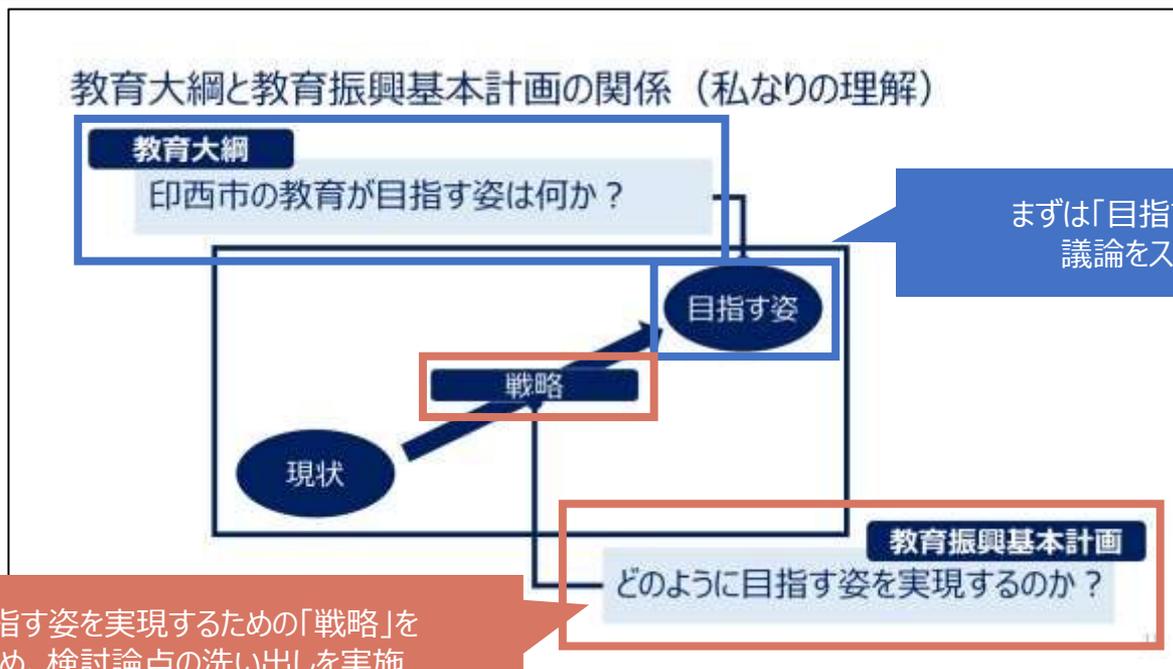
身体性の喪失とバーチャル/
デジタル世界の拡大

「正解を教える教育」から「問いを共に探究する教育」へ
 これからの「学び」は単に提供するだけではなく、学習者が中心となる学びに変わる

項目	Not this (これまで)	But this (これから)
学びの主体 教員の役割	教員が一斉に教える・受動的な学び 知識伝達者・指導管理者	子どもが自ら問いを持ち探究する・主体的な学びファシリテーター・学びの伴走者
カリキュラム 学びの方法	教科書中心・教科ごとに独立・単線的 教科書・黒板中心・知識詰め込み型	個別最適化・横断的・柔軟な学び ICT活用・対話・探究・プロジェクト型学習
評価 キャリア観	テスト中心・点数・知識量重視 偏差値・進学がゴール	プロセス・対話・多面的評価 生きる力・社会貢献・自己実現を重視したキャリア形成
教室の役割	知識を教える場所	共創し、問いを育む場所
協働の在り方	個人作業中心	チームで課題解決・他者との対話
地域・社会との関係性	閉鎖的な校内文化	地域・社会とつながるオープンで柔軟な学校文化

教育ビジョンの策定にあたり「印西市の教育が目指す姿は何か？」「どのように目指す姿を実現するのか？」という2つの論点について、市としての考え方を示す

論点の位置付け/全体像 (第1回総合教育会議 市長講演資料より)



まずは「目指す姿」から議論をスタート

次に、目指す姿を実現するための「戦略」を考えるため、検討論点の洗い出しを実施

各論点の検討を深めるため、サブ論点を設定し議論を実施 現時点の仮説を整理

論点	サブ論点	現時点の仮説
印西市が目指す教育の姿とは？	A-5 誰もが「こころ」「からだ」「社会的つながり」が健やかで満たされている状態 一人ひとりが幸せや生きがいを感じるとともに地域や社会が幸せや豊かさを感じられる状態 =ウェルビーイング	
	「目指す姿」を実現するために必要なことは？	A-6 現代においても変わることのない「自分らしく生きる」ことや「他者とつながる」といった普遍的な価値（不易）を基盤としつつ、未来を創る（時代や社会の変化（流行）に柔軟に対応する）学びを通じて、一人ひとりが「持続可能な社会の創り手」として成長していくこと
	そのためにはどのような支援が必要か？	A-7 これからの教育に必要な「3つの力」を育む学びを支える ・自分らしく生きる力（自立） ・他者とつながる力（共生） ・未来を創る力
どのように「目指す姿」を実現するのか？	これからの教育に必要な「3つの力」を育むために特に何に力を入れるべきか？	A-8 3つのプロジェクトを展開する ・学校職員：働くプロジェクト～軽やかに前向きに働ける学校へ～ ・子ども：学ぶプロジェクト～自分らしさを活かし共に創る学びへ～ ・地域：共に育むプロジェクト～みんなでつながり共に育む地域へ～

検討中

印西市が目指す教育の姿とは

ウェルビーイングとは、誰もが「こころ」「からだ」「社会的つながり」が健やかで満たされている状態や一人ひとりが幸せや生きがいを感じるとともに地域や社会が幸せや豊かさを感じられる状態

子どもたち一人ひとりのウェルビーイングが学校や地域全体のウェルビーイングに

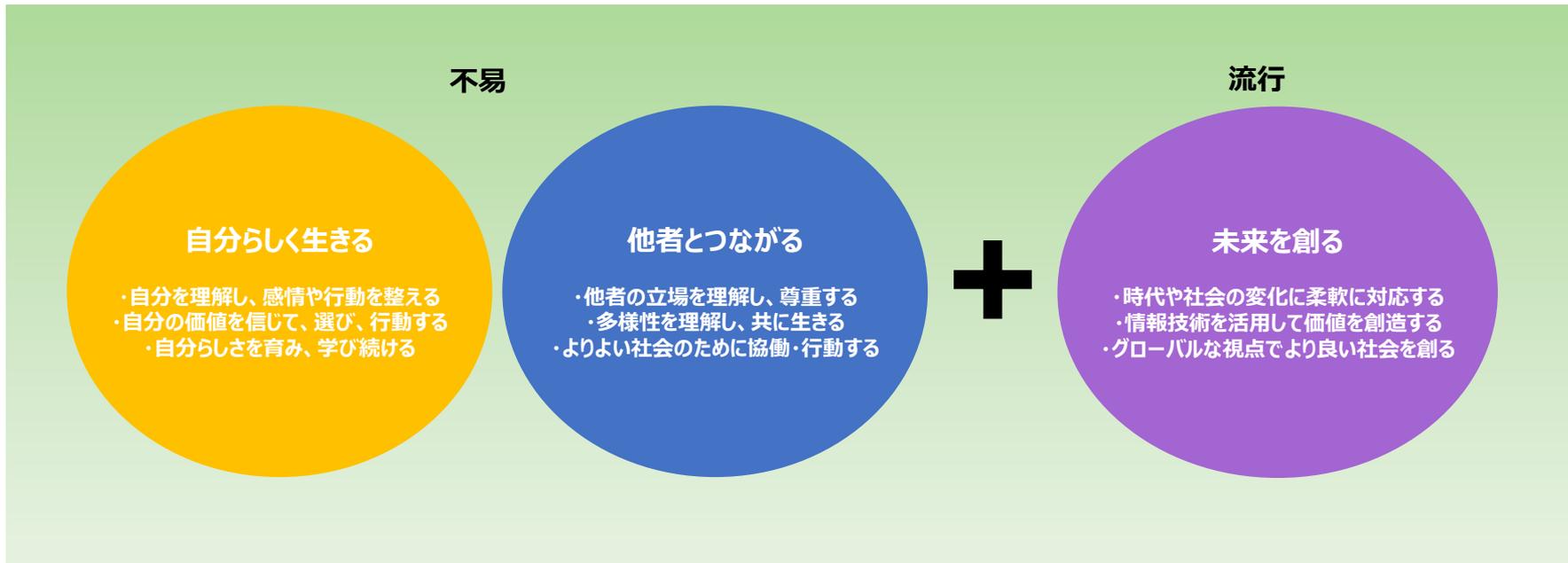
子供たちのウェルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要。また、子供たち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していくという姿の実現が求められます。



「目指す姿」を実現するために必要なことは？

現代においても変わることのない「自分らしく生きる」ことや「他者とつながる」といった普遍的な価値（不易）を基盤としつつ、未来を創る（時代や社会の変化（流行）に柔軟に対応する）学びを通じて、一人ひとりが「持続可能な社会の創り手」として成長していくこと

子どもたちだけでなく学校職員や保護者、地域全体で成長する



そのためにはどのような支援が必要か？

一人ひとりのウェルビーイングと持続可能な社会の創り手としての成長を目指すうえで、
「自分らしく生きる力」と「他者につながる力」を育む必要があるのではないかと
また、これからの時代には**「未来を創る力」**が特に必要と考える

これからの教育に必要な**「3つの力」**を育む学びを支えていく

自分らしく生きる力（自立）

他者につながる力（共生）

自ら問いをもち、探究・行動し続ける力

共に学び、支え合い、より良い社会を築く力

自らへの主体性

社会への主体性

①自分を理解し、感情や行動を整える

- 自分の感情や特性を理解し、前向きに受け入れる
- 感情や行動を調整し、自分を整える
- 行動や学びをふりかえり、よりよくしようとする

②自分の価値を信じて、責任を持って、選び行動する

- 自分の考えや信念に基づいて判断・選択する
- 自分を信じて、責任をもって行動する
- 困難にも粘り強く取り組み、挑戦し続ける

③自分らしさを育み、学び続ける

- 自分の関心や得意を活かし、目標に向かって学び続ける
- 学び方を見直し、自分に合った方法で学びを深める
- 振り返りと変化に対応しながら、自らを高め続ける

身体性・身体知・身体感覚

自然や社会を身体で感じ、経験から意味を見出し、持続可能な未来をつくるために考え、行動する

① 他者の立場を理解し、尊重する

- 人権を尊重し、思いやりある行動をとる
- 他者の感情・経験・意見を理解する
- 弱い立場の人に対しても敬意を持って接する

② 多様性を理解し、共に生きる

- 多様な価値観・文化・背景を理解する
- 違いを認め、共に学び合う姿勢を持つ
- 誰もが安心できる「居場所」をつくることを大切にす

③ よりよい社会のために協働・行動する

- 多様な他者と対話を重ね、共通理解を築く
- 互いの役割や強みを活かして協働する
- 地域や社会の課題を見つけ、自ら関わろうとする

未来を創る力（創造）

未来を構想し、学びを活かして創造する力

デジタル教育

- ①テクノロジーや情報を活用し、当たり前を問い直しながら探究して、新たな価値を創り出す

- ②多様な世界とつながり、グローバルな視点で未来を見通し、共によりよい社会を創っていく

グローバルマインド

これからの教育に必要な「3つの力」を育むために特に何に力を入れるべきか？

学校教育における「**学びの革新**」を優先的に取り組むべきと考え、
印西市の強みと特色を活かした3つのプロジェクトを展開する

A-8

印西市の教育が変わる！3つのプロジェクト

検討中

プロジェクト01

学校職員：働くプロジェクト

～軽やかに
前向きに働ける学校へ～

プロジェクト02

子ども：学ぶプロジェクト

～自分らしさを活かし
共に創る学びへ～

プロジェクト03

地域：共に育むプロジェクト

～みんなでつながり
共に育む地域へ～



印西市
Inzai City